

2024年10月15日

郵産ユ岡山24-2

岡山中央郵便局

局長 和田 公治 殿

郵政産業労働者ユニオン岡山支部

支部長 小野 雅道

2024年度年末年始繁忙に関する要求書

貴職の日ごろの奮闘に敬意を表します。

2024年度年末年始業務運行に関して安定的な業務運行の確保と社員・非正規社員の労働安全や健康を確保するために以下の要求を提出します。10月31日までに誠意ある回答と早急な交渉の場を求めます。

記

- 1、「年末年始業務運行対策に関する労使間の意思疎通」のルールに基づき13項目について意思疎通を行うこと。
- 2、年末始の研修に関しては、資料配布で済ませることなく丁寧な説明をもって行うこと。開始時間にはゆとりを持たせ、例えば16時開始といったような業務運行に支障をきたすような業務研究会は行わないこと。
- 3、連続出勤については、6日以内となるよう要員配置を行うこと。
- 4、12月31日から1月3日までは、社員の健康面への配意の観点からも、超勤を行わなくて済むよう要員確保を行うこと。併せて、突然勤務開始時間を変更するような指示は止めること。
- 5、1月1日から1月3日迄に全社員に最低1日以上の日を確保すること。
- 6、年末始繁忙期における短期期間雇用社員の雇用確保に万全を期すこと。また、年明け以降も長期雇用できるようにすること。
- 7、年末始に限らず夜間ゆうゆう窓口等が長蛇の列となっている事が多いため、十分な要員配置を確保すること。
- 8、「36協定」違反とならないよう指導することも含め、休憩休息取得や時間前着手根絶等、勤務時間管理を徹底すること。超勤4時間前発令も徹底すること。また、勤務時間が何故守られていないのか原因を究明し解決に取り組むこと。
- 9、年賀郵便物配達結束打切便について元旦配達分は12月30日夜までとすること。

- 10、 物品が不足しないよう、毎年何が不足しているかを挙げ、班長会等で対策を講じること。指サックも蛍光ベスト等も不足し支給されない事例もあった。絶対に起こらないよう努めること。
- 11、 元旦の機動車が不足しないよう確保すること。そのためにも、10万キロを超えたバイクが未だに多数見られるが、繁忙期に故障し不足するといった事態も予測されるため、年数にこだわらず早急に新車に更改すること。電動バイクに更改するなら予備バッテリーを充実させること。
- 12、 機動車の自主整備に関して、超勤が膨らむ等の理由で勤務時間終了後に行っている事例が多数見受けられる。かなり時間をかけて行っている事例も見受けられる。時間外労働根絶の観点からも、自主整備はやめ業者対応とすること。
- 13、 特に繁忙期間中は業務がひっ迫することが強く予想されるため、安全立哨や地下での一本橋等の訓練は止め、地下からの渋滞緩和に努め、道路に出るまでの時間を少しでも解消すること。
- 14、 翌日準備に関して、以前より改善されたとはいえ勤務時間外で社員が区分・道順をしている事例が未だに見受けられる。翌日準備のために必ず超勤をしないとイケない雰囲気であることも含め、このような実態を会社はどう思っているのか明らかにし更なる対策を講じること。
- 15、 上記に関して、コストコントロールによる過度な超勤抑制等を行わないこと。時間外労働・超勤未払いの温床になっているため適正な要員確保によって改善に努めること。
- 16、 年々、年賀郵便物の遅出し傾向が顕著になってきているが、元旦配達物数にこだわらず、無理な結束を行わないこと。
- 17、 交通事故、ロールパレット事故等の労働災害の根絶には万全を期すこと。
- 18、 2023年度の岡山中央郵便局における年賀販売枚数と引受通数を明らかにすること。
- 19、 土日祝の集配部勤務開始は、特に繁忙期間は約束した時間に間に合わない等の事態が大いに有り得る為お客様に迷惑をかけない観点からも8時出勤に戻すこと。
- 20、 「自爆営業」根絶のため、低実績者へのパワハラ等が無いよう、高い実績を求め過ぎないようにあらためて管理者・役職者へ指導し社員周知を徹底させること。
- 21、 年賀はがきの販売に関しては、郵便窓口やコンビニを基本とすること。
- 22、 新型コロナウイルスの感染拡大は完全に収まったとは言いきれません。そんな中での戸別への営業活動は、お客様感情の観点からも控えること。

- 23、 新型コロナウイルス以外にも様々な感染症が横行している中であるため、体操の声出しや唱和は中止し、雨対策のビニール袋再利用も中止し、ミーティングは簡素化するなどして、飛沫感染防止や密を作らないよう努め、消毒液やマスク等の備品確保含め感染防止対策を徹底すること。
- 24、 インフルエンザ予防接種費用は会社負担とすること。
- 25、 集配バイクの壊れたキャリーボックスや破けた網紐が無いか点検し修繕に努めること。
- 26、 なまものやこわれもの、バイクにとっては大きめの小包をバイクで配達しなくて済むよう、委託業者の確保に取り組み、撤退等しないよう要望を聞き入れる等十分な話し合いを行う等して配慮すること。
- 27、 利用者に約束したことが守られるように、ゆうパック対策として小包配達担当者を更に多く雇用できるよう予算配分も含めて対処できるようにすること。
- 28、 繁忙期前から、バイクによる速達・小包等の兼配により、バイクのキャリーボックスのフタが閉まらない状態のまま走行せざるを得ない状況が多くある。特にメール便やゆうパケットの嵩に悩まされる傾向が最近特に強く少し大きい小包でさえバイクは今まで以上に積載が難しくなっているため、荷崩れや破損等品質の観点からも、速達・小包のバイクでの兼配はやめ、混合区を復活させること。
- 29、 減区や兼配により、通配担当者は繁忙期前にもかかわらず持ち戻りとなる事例が過去にあった。岡山郵便局でも処理が遅れ、更に配達も遅れると、お客様に多大な迷惑をかけることになるので、減区・兼配は中止し他局・支社からの応援、OBへの声かけ、更には管理者対応も視野に入れ、現状の少なすぎる要員状況で現場に無理をさせる現状の改善を会社は責任を持って努めること。
- 30、 重大事故やお客様への多大なる迷惑をかける可能性を何度も指摘してきたが、それでもなお減区・兼配を行う理由を説明すること。以前から主張していた年休が消化できないことを理由とするなら、早急に要員確保すること。
- 31、 繁忙を理由とした年休制限を行わないこと。希望しない日に勝手に年休を入れないこと。また、時季変更権の行使を行うなら、変更する時季を具体的に明示すべきところ、管理者・役職者は「出ない」と言うだけで終わらせるため、なぜ改善しないのかを説明するとともに改善に向け指導徹底すること。
- 32、 例年狭いと不満が出ている年賀作業スペースを、ウマ・サオを倒す等の事故防止や色んな人が通り抜ける事もあるため余裕をもって確保すること。現行を可とするなら、その理由も説明すること。

- 33、 年賀も普通郵便も2パスの処理率が前年より落ちないように、手区分を増やさないように要員配置を徹底すること。普段からも順番がバラバラな事があるが31日から年明けは2パス率が更に落ちる傾向にあるため徹底すること。
- 34、 岡山郵便局において、未だに管理者・役職者が発端であると思われるいじめ・パワハラが報告されている。いじめが原因と思われる労災も報告されている。これまで何度も指摘したが、改善されないなら原因であると報告された管理者・役職者を配置換え・配転するなどし、他局であった尊い命を自ら絶つといったような取り返しのつかない事態に発展する前に改善に向け真剣に取り組むこと。
- 35、 岡山郵便局からの小包等も含めたトラック便が遅れることのないよう、岡山郵便局の要員確保には万全を期すよう努めること。
- 36、 年賀区分を岡山郵便局で、岡山南・妹尾・倉敷等の周辺局の分も行うなら、年賀処理に加えメール便が増えるなどして混乱が予想されるため、ギリギリの要員で業務運行を行わないよう業務に支障が出ないように、お客様に迷惑をかけないように余裕を持った要員確保を行うこと。
- 37、 岡山郵便局で要員確保ができず処理が遅れると岡山中央その他の周辺局にも混乱が生じることに繋がる。なぜ岡山郵便局は毎年のように確保できないとの声が出るのか、ベテラン社員が多く退職していくのか。職場へのアクセスの不便さ、管理者によるパワハラの漫然化等は特にきちんと原因究明して解消できるよう対策を講じること。
- 38、 上記に関して、ヤマトのメール便が増加しても対応できる要員を確保すること。2017年、岡山郵便局の処理遅れにより遅配となったことが新聞記事に掲載されるという不名誉なことが起こっている。先日も岡山中央郵便局では郵便内務と集配との結束時間の意思疎通ができていない事が原因と思われる処理遅れが発生している。郵便内務は少ない人数で現場に無理を求めた結果、集配はそれに加え翌日準備や出勤時間の変更等を郵便内務と十分な話し合いができていなかった事が原因と認識している。そのようなことが二度と起きないように十分すぎる位の要員確保、コストコントロールと称した超勤を渋って現場に必要以上に無理をさせず、あらゆることを想定しながら郵便内務と集配で十分に話し合う事を求めると共に在職者の休職や退職が起きないように、特に岡山郵便局では主な原因である管理者等のいじめ・パワハラ・始末書乱発を根絶することを強く求める。

以上